

中学生は「ほんとうの言葉」で平和を語り合えるか —戦争文学として『平家物語』を読む—

東京学芸大学附属小金井中学校 数井千春

1 はじめに

戦争体験のない私たちが、戦争を「ほんとうの言葉」で語れるか。はっきり言ってしまえば、無理なのだ。だからと言って何もしなくてよいわけではない。戦争を知るために、戦争文学を「読む」。黙読、音読、群読、対話…、様々な方法を試しながら読み、浸り、体感しようとする。それを言葉にして語り合う。この單元では実を結ばないことはわかっている。だが、あがいてみる。この試みによって、子どもたちの中に何かが残し、それが作品を、平和を問い続ける力となることを願って行う單元である。

子どもたちにとって学校は、幸せな場、明るい気持ちで将来を思い描ける場でありたい。戦争を扱うとしても、落ち着いた気持ちで学習してほしい。そう考え、学習材を『平家物語』にした。歴史的仮名遣いで書かれた、およそ800年前の戦の世界を、子どもたちは自分の生活から隔絶した世界として感じるだろう。日常生活を営むこちら側(今)とは、明らかに異なる向こう側(昔)で起きたことだと感じられれば、怖がらずに思い切って読み、率直に語ることはできるのではないか。この作品は短い章段の連続のなかに、多くの人の経験と心情が描かれているから、学習対象を自分で選択できる。戦の場面でなくても、死が日常化した世界で人がどう生き、何を思っていたのかを読むことができる。

2 単元名「気持ちの記憶を語る—『平家物語』を問い続ける—」

3 学習指導の工夫—作品へのためらい、群読へのためらい—

(1)学習材について

角川ソフィア文庫『ビギナーズクラシックス平家物語』を一人ずつ持ち、作品全体を読む。ビギナーズクラシックスは初学者の興味を引くように、わかりやすく各場面のあらすじが書かれている。その中の20の場面については、本文(ふりがな付き)と現代語訳を掲載している。簡単な解説や絵や地図などもあり、作品全体に触れながら、『平家物語』に親しめる作りとなっている。これをおよそ2週間の読書期間をとり、目次に印をつけながら、自分のペースで読み進める。その後、学習として取り組みたい場面を自分で選び、希望をもとにグループ編成を行い、グループごとに担当場面を学習する。

ビギナーズクラシックスで全体にふれた後は古典文学全集によって一場面を読み深めてゆく。必要に応じてその他の訳本も読んだ。複数の訳や解説を読むことで、表現の違いに着目することができる。さらに、学校司書に依頼して、武士の生活や仏教思想を知るための資料も準備した。

(2)言語活動について

『平家物語』が声によって広まった作品であることをふまえ、群読を行う。だが、この群読という方法に、ためらいもある。言葉の意味がよくわからなくてもわかったような気になって、無自覚のうちに特定の思想が身体化してしまう怖さがある。戦時中も『平家物語』の群読が行われていた。だから、声をそろえることではなく、気持ちを感じながら自然に読むことを重視したい。みんなで声に出しながら、その場の気持ちを話し合い、確かめ合い、言葉にしてゆく。

また、群読で終わらず、そのための練習や話し合いから見えてきた登場人物の気持ち、さらにその奥にある論

理を、自分の言葉で説明することを重視する。群読によって身体的に作品に浸り、登場人物と共に生きる自分と、作品の外から登場人物を対象化する自分。両方の立ち位置を行き来しながら、どのような「気持ちの記憶」が記録されているのか、その奥にどのような「論理」が存在するのか。それを自分はどう感じるかを言語化させたい。

4 身につけさせたい国語の力 (これまで学習してきたことを確かめる場として)

- 「平家物語」のリズムを感じながら朗読し、古典の世界に親しむ。
- 互いの立場や考えを尊重しながら話し合い、結論を導くために考えをまとめることができる。
- 現代語訳や語注などを手掛かりに古文を読み進め、登場人物の言動の意味を考えることができる。
- 関連する本を参考にしながら、登場人物の心情や作品全体の根底にある、見方や考え方を知る。
- 文章を読んで理解し考えたことを、知識や経験と結び付け、自分の考えを広げ深めることができる。

5 学習指導計画(全10時間)

第一次 『平家物語』に出会う

- (1)小泉八雲『怪談』「耳無芳一」の朗読を聞く。……………1時間目
- (2)『平家物語』の成立と琵琶法師についての解説を聞き、メモをとる。
- (3)冒頭部「祇園精舎の鐘の声～」をクラスで群読する。……………2時間目
- (4)冒頭部のイメージを絵や詩にする。

——2週間、文法学習と並行してビギナーズクラシックスで全体を読む。家庭でも読む。——

第二次 場面を読み深める—グループ学習—

- (1)深く読み深めたい場面を選ぶ。→グループ編成 ……………3～8時間目
- (2)発表内容を知る。(場面説明、現代語訳の確認、群読、コメント)
- (3)各グループで準備を進める。
 - 各自で場面説明を書く。話し合いで文章を磨いてゆく。
 - グループで、本文と現代語訳を交互に読みながら、担当場面を理解する。
 - グループで、状況や登場人物の心情をふまえて、どのように群読するかを考える。
 - グループで、群読の練習をする。
 - 各自で、登場人物の心情を起点に、各場面についてのコメントを書く。
 - グループでの話し合いによって、各自のコメントを磨いていく。
 - グループで、各自のコメントをふまえて、まとめの文章を考える。

第三次 発表会

- (1)リハーサルと発表会……………9、10時間目
- (2)もう一度、冒頭部のイメージを絵や詩にする。
- (3)まとめ